津波対策

津波から命を守るためには、
「強い揺れ、弱くてもゆっくりとした長い揺れを感じたら」・・・すぐに避難!!
「揺れが無くても津波警報を見聞きしたら」・・・すぐに避難!!

津波警報・注意報

津波による災害の発生が予想される場合には・・・

地震発生 → 発生後約3分で → ●大津波警報 ●津波警報 ●津波注意報 を発表します。 → その後 → ●予想される津波の高さ ●津波の到達予想時刻 等の情報を発表します。

津波に関する情報

津波警報の発表後

沖合や沿岸の観測点で観測した
津波の高さや到達時刻を発表します。

- 高い津波が来る前は、津波の高さを「観測中」として発表します。
- 沖合で観測された津波の情報をいち早く伝えます。

「津波の高さ」は津波がない場合の海面からの高さです。
津波が陸上で崖などを駆け上った高さは、
海上の津波の高さの何倍にも達することがあります。

津波警報・注意報の分類と、とるべき行動

（※気象庁ホームページを参照）

	発表される津波の高さ		とるべき行動	想定される被害
	数値での発表（津波の高さの予想区分）	津波の規模の表現		
大津波警報	10m超（10m<予想高さ）	巨大	ハザードマップの津波浸水想定区域内の住民や沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高台や避難ビルなど安全な場所へ避難してください。 津波は繰り返し襲ってくるので、津波警報が解除されるまで安全な場所から離れないでください。 ここなら安心と思わず、より高い場所を目指して避難して下さい!	木造家屋が全壊・流失し、人は津波による流れに巻き込まれる。
	10m（5m<予想高さ≦10m）			
	5m（3m<予想高さ≦5m）			標高の低いところでは津波が襲い、浸水被害が発生する。人は津波による流れに巻き込まれる。
津波警報	3m（1m<予想高さ≦3m）	高い		
津波注意報	1m（20cm≦予想高さ≦1m）	（表記しない）	海の中にいる人は、ただちに海から上がって、海岸から離れてください。津波注意報が解除されるまで海に入ったり海岸に近付いたりしないでください。	海の中では人は速い流れに巻き込まれる。養殖いかだが流失し小型船舶が転覆する。

※津波警報等の発表時には、各区分の高い方の値を、予想される津波の高さとして発表します。

「巨大」という言葉を見たり聞いたりしたら、東日本大震災クラスの津波が来ると思って、ただちにより高い場所に避難しましょう!

南海トラフ地震について

南海トラフ地震は、ひとたび地震が発生すると、時間差で後発地震が発生し、静岡県から宮崎県にかけて、大規模な地震へと発展する可能性があります。
後発地震の発生の確率が高まった時点で、事前に一週間程度、避難する必要があります。
勝浦市では、下記の地域を事前避難対象地域に定めており、また同地域を、避難に時間を要する高齢者等（要配慮者）が、一週間避難を継続すべき地域である、高齢者等事前避難対象地域にも定めております。

事前避難対象地域及び高齢者等事前避難対象地域

勝浦地区	勝浦区、浜勝浦区、墨名区（ニュー黒潮台、若潮台を除く）、新官区、沢倉区、川津区、出水区、部原区、松部区（松部山田を除く）、串浜区（串浜新田を除く）
興津地区	大沢区（上大沢を除く）、浜行川区（広畑を除く）、興津区（興津久保山台を除く）、守谷区、鵜原区、吉尾区

津波からの避難

ハザードマップの津波浸水想定区域内にいる人は
危険を感じたら、市からの避難情報を待たずに避難してください!

地震の揺れを感じたら!
- 強い地震のとき
- 弱くても長時間の地震のとき

→ **海岸付近にいた場合 すぐに海岸から離れて!** 堤防より内陸側へただちに移動

→ **正しい情報の入手** 「津波の心配なし」が確認できない限り避難!

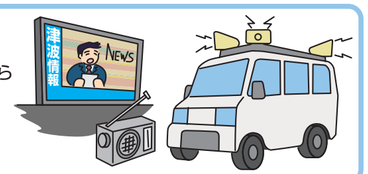
→ **安全な場所へ**
- 津波到達まで時間がある場合は、浸水想定区域外の避難所などへ。
- 時間がない場合は、津波避難ビルや近くの高いところへ。

津波注意報・津波警報がでたら! → **ただちに避難!**

避難時の注意事項

海底で地震が起きると、海底の地形が急に変わり、海水が大きく押し上げられたり沈み込んだりするため、津波が起きることがあります。
この波の高さは水深が浅くなるにつれて増し、湾内に入るとさらに高くなります。
ときには数十mにもなり、大きな被害をもたらすこともありますので早めの避難が不可欠です。
なお、津波は日本近海の地震のみでなく、遠方の国で発生した地震や火山島の噴火によっても引き起こされます。

ラジオ、テレビ、
防災行政無線などから
新しい情報を!



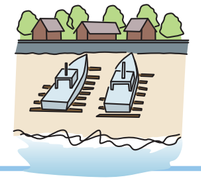
津波注意報でも、
海水浴や
磯釣りは危険!
ただちに避難

津波はくりかえしやってくる。
警報、注意報が解除されるまで
気をゆるめない!

地震を感じなくても、
津波注意報・警報が出されたら
ただちに高台に避難!
船は湾外へ退避!

強い地震、また弱い地震でも
長い時間ゆっくりとした揺れの場合は、
ただちに安全な場所へ避難!
船は湾外へ退避!

湾外退避できない小型船は
高いところに引き上げて固縛を!
ただし時間に余裕があるときに!



周囲の状況に応じてあわてずに身の安全を確保し、避難行動をとりましょう。

すみやかに高台に避難し、
津波情報をよく確認しましょう。

※津波は2度、3度とやってきます。
また、1度目より大きな津波が来る
こともありますので波が引いたから
といって海岸付近に戻ってはいけません。

近くに高台がないときは
堅牢な高い建物に
避難しましょう。

自動車の利用はやめて
徒歩や自転車などで移動しましょう。

津波てんでんこ

津波被害の多い三陸地方の教訓。
津波が起きたら、家族が一緒にいなくても気にせず、てんでばらばらに高台に逃げ、まずは自分の命を守ること。
※各々が最適な行動をとるためには、日頃より家庭や地域でよく話合い、訓練することが重要です。

地震に備えて

地震発生! そんなときどうする

地震発生時の時間経過別行動マニュアル（室内にいた場合）

地震発生

最初の大きな揺れは約1分間

- まず、自分の身を守る（机の下に隠れたり、手近な座布団などで頭を保護する。）
- すばやく火の確認（揺れが激しいときは無理をしない。）　●ドアや窓を開けて逃げ道を確保
- 室内に居ることが危ないと判断した場合、すばやく屋外の安全な場所に一時避難する

1〜2分

揺れがおさまったら

- 火元を確認（火が出たら、落ち着いて初期消火。※初期消火の限界は炎が天井に燃え移る前まで。）
- 家族の安全を確認（倒れた家具の下敷きになっていないかを確認。）
- 靴などをはく（ガラスの破片の散乱から足を守るため、靴や厚手のスリッパをはく。）
- 避難するときは、屋根がわらの落下やブロック塀・自動販売機などの転倒に注意

3分

みんなの無事を確認 火災の発生を防ぐ

隣近所に声をかけよう	●隣近所で助け合う（要配慮者の安全確保をする。） ●行方不明者はいないか　●ケガ人はいないか
出火防止・初期消火	●初期消火　●消火器を使う　●座布団、毛布、大きめのタオルなどの活用 ●漏電・ガス漏れに注意（ガスの元栓・電気のブレーカーを切る。）　●余震に注意

5分

ラジオなどで正しい情報を

- 大声で知らせる　●救出・救護　●防災機関、自主防災組織の情報を確認　●デマにまどわされないように
- 避難時に車は原則として使用しない　●電話の使用は控える

10分

数時間

3日

協力して消火活動、救出・救護活動を

- 水、食料は蓄えているものでまかなう（最低でも3日間、できれば1週間分備蓄しておく。）　●災害情報・被害情報の収集
- 無理はしない　●風呂水を貯めおきしておく（ただし、乳幼児のいる家庭では浴槽への転落防止のため工夫しましょう。）
- 助け合いの心が大切　●こわれた家には入らない　●引き続き余震に注意

火災に備えて

火災発生! そんなときどうする

初期消火の3原則

1人で消せるだろうと考えず、隣近所に火事を大声で知らせ、すみやかに119番通報を。
初期消火で火事を消せなかったら、すばやく避難しましょう。

1 早く知らせる

- 「火事だ」と大声を出し、隣近所に援助を求める。声が出なければ、やかんなどを叩き、異変を知らせる。
- 小さな火でも119番に通報する。当事者は消火に当たり、近くの人に通報を頼む。

2 早く消火する

- 初期消火の限度は炎が天井に届くまで。
- 水や消火器だけで消そうと思わず、座布団で火を叩く、毛布で覆うなどの手近なものを活用する。

火元別初期消火のコツ

油なべ

あわてて水をかけるのは厳禁。消火器がなければ濡らした大きめのタオルやシーツを手前からかけ、空気を遮断して消火を。

石油ストーブ

真上から一気に水をかけて消火（斜めにかけると石油が飛び散って危険）。石油が流れてひろがっていくようなら毛布などで覆い、その上から水をかけて消火を。

衣類

着衣に火がついたら転げまわって消す方法も。髪の毛の場合なら衣類（化繊は避ける）やタオルなどを頭からかぶる。

風呂場

風呂場からの出火に気づいても、いきなり戸を開けるのは禁物。空気が室内に供給されて火勢が強まる危険がある。ガスの元栓を締め、徐々に戸を開けて一気に消火を。

電気製品

いきなり水をかけると感電の危険が。まずコードをコンセントから抜いて（できればブレーカーも切る）消火を。

カーテン・ふすま

カーテンやふすまなどの立ち上がり面に火が燃えひろがったら、もう余裕はない。引きちぎり蹴り倒して火元を天井から遠ざけ、その上で消火を。

3 早く逃げる

- 天井に火が燃え移った場合は、速やかに避難する。
- 避難するときは、燃えている部屋の窓やドアを閉めて空気を絶つ。
- 一酸化炭素などの有毒ガスを含んだ煙を吸い込まないように低い姿勢でマスク・タオルなどで口をふさいで逃げる。

避難時の感染症対策

新型コロナウイルス感染症が収束しない中でも、災害時には、危険な場所にいる人は避難することが原則です

陽性者、濃厚接触者、発熱や咳の症状がある方は、状況に応じた避難所をご案内いたしますので、避難する前に保健所もしくは、市役所消防防災課にご連絡ください。

「自らの命は自らが守る」意識を持ち、適切な避難行動をとりましょう

知っておくべき5つのポイント

内閣府（防災担当）・消防庁

避難とは[難]を[避]けること。
安全な場所にいる人まで避難場所に行く必要はありません。

市が指定する**避難場所、避難所が変更・増設されている可能性**があります。
災害時には**市ホームページ等で確認**して下さい。

避難先は、小中学校・集会所などで市や地域が開設する避難所だけではありません。
安全な親戚・知人宅や安全な宿泊施設に避難することも考えてみましょう。

豪雨時の屋外の移動は**車も含め危険**です。
また、やむをえず**車中泊をする場合**は、浸水しないよう**周囲の状況等を十分確認**して下さい。

マスク、消毒液、体温計などの衛生用品は、できるだけ**自ら携行**してください。

市民の皆さんに平常時からお願いしたいこと

自宅の安全性の再確認

ハザードマップにより、自宅の安全性や避難の必要性を再度、確認してください。

分散避難の検討

避難所が過密状態になることを防ぐため、分散避難を検討してください。

- 在宅避難（自宅の安全性が確保できる方）
- 安全な親戚や知人宅への避難
- 車中避難（安全な駐車場が確保できる方）
- 安全な宿泊施設

避難所生活での留意事項

市が開設する避難所では、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、

- **避難者全員の検温・手指消毒・マスクの着用**
- **身体的距離の確保**
- **定期的な換気**
- **定期的な避難者の健康状態の確認**

などを徹底します。

なお、避難所生活では以下の事項に留意してください。

- **マスク、体温計、ウェットティッシュなどの衛生用品は、なるべくお持ちください。**
- **こまめに手洗い（食事前、トイレ使用後など）を励行するとともに、咳エチケットなど基本的な感染対策を徹底してください。**
- **市（避難所担当職員）が行う、避難者の定期的な健康状態の確認にご協力ください。**
- **発熱や咳の症状がある場合は、速やかに避難所担当職員に申し出てください。**